



# ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

## 記念大会に史上最高の参加者 ひろしまクロスカントリー大会

REPORT ①

第10回の記念大会となる「ひろしまクロスカントリー大会」が8月22日、道後山高原クロカンパークで行われました。

中国電力など実業団のトップアスリートをはじめ、1歳9ヶ月の幼児から85歳の高齢者まで約2,100人が挑戦しました。2,000人の大台を越えるのは今回が初めて。記念大会として豪華景品も用意されました。

参加者は1キロから8キロの5コースに分かれ、多目的広場を次々にスタート。トップアスリートのスピードを肌で感じながら、標高700mの高原コースをさわやかに駆け抜けました。沿道からは「がんばれ！」と声援が送られ、親子や仲間で励まし合いながら、懸命にゴールを目指していました。



▲実業団選手がレースを引っ張る8キロの部

会場内には、特産品などの販売ブースが設けられ、地元の味を楽しんでいました。

REPORT ②

## おいしい野菜がとれたよ 西城保育所野菜収穫体験



▲真っ赤に熟れたトマトを選ぶ子どもたち

8月5日、西城保育所の園児が、NPO法人ヒバゴンの知恵袋が運営する西城町大屋の小仁子山農園に出かけ、トウモロコシとトマトの収穫を体験しました。

年長組と年中組の園児51人は、NPO法人のメンバーから農園の説明と収穫の仕方を聞き、自分たちの背

丈よりも高く伸びたトウモロコシ畑の中で大きな実を探したり、トマトが植えられたビニールハウスで真っ赤に熟れたトマトを選んだり、もぎ取りを体験しました。園児たちは「とれた！」と歓声を上げたり、「初めてだけど上手にとれた」と話したりしていました。収穫したトウモロコシやトマトは、給食やおやつ material として使われます。

保育所の田中悦子所長は、「子どもたちにとってよい体験ができた。食育を通して地域の人たちとのつながりも大事にしていきたい」と話していました。

西城保育所では、野菜や米を地元農家から直接仕入れたり、農家から畑を借りてサツマイモやエダマメ、ナスを植えたり、給食用食材の地産地消を進めています。また、園児が栽培・収穫・調理することを通じて食べ物の大切さや、食べることの楽しさ、生きる力を育む食育に取り組んでいます。

REPORT ⑥

生徒の手でまちをきれいに  
東城高校ボランティア清掃



東城高等学校が7月22日、JR東城駅やバス停・通学路でクリーン作戦に取り組みました。

生徒会の呼びかけで1～3年生の有志53人が参加。東城駅では、脚立にあがって天井や壁のクモの巣を払ったり、窓ガラスの汚れを専用ブラシや雑巾でふき取ったりしました。

バスの待ち時間などで、東城駅を利用している山田美恵さんは「生徒の皆さんのおかげで大変きれいになり気持ちよくなった」と話していました。

東城高等学校では、地域貢献活動の一環としてクリーン作戦を、平成16年度から毎年2回実施しています。

▲東城駅を清掃する生徒

感情込めて英語力披露  
中学生英語スピーチ大会

REPORT ⑦

第5回「中学生による英語スピーチ大会」が6月14日、庄原市ふれあいセンターで開催されました。

この大会は、英語を好きになって世界へ羽ばたく若者になってほしいと、庄原ロータリークラブが毎年実施しているものです。

今回は、市内の7中学校から15人の生徒が参加。生徒たちは、日ごろ感じていることや将来の夢を、英語で堂々と発表しました。

主催した山口三喜雄さんは「来年もたくさんの中学生に参加してほしい。そして、市民の皆さんも会場で生徒の発表を応援してほしい」と話していました。



▲関係者と参加者で記念撮影

REPORT ⑧

口和町の新スポットが人気  
竹地やすらぎ公園グラウンドゴルフ場



▲天然芝のコースを楽しむ子どもたち

この春、口和町竹地谷に完成した「竹地やすらぎ公園」のグラウンドゴルフ場が人気を集めています。

これは地元自治振興区が、昨年度の庄原市自治振興区活動促進補助金を活用して、竹地谷地域の活性化を図ろうと整備。完成後は、地域住民をはじめ各種団体のグラウンドゴルフ大会に使用され、「16ホールすべてが天然芝で、とても美しいコース」と評判です。

8月11日には、口和公民館主催の「小学生グラウンドゴルフ大会」が行われ、芝生の気持ちよさとグラウンドゴルフの楽しさを満喫していました。

使用料は1日券500円、団体割引(12名以上)で300円になります。申し込み・問い合わせは竹地自治振興会の増原会長へ(☎0824-87-2672)。

REPORT ③

全国初の官民連携「森林教室」  
比和小学校が森林体験



▲紙芝居で環境保全の大切さを学ぶ

「美しい森林づくりに関する覚書」を締結した近畿中国森林管理局とアサヒビール(株)が7月15日、比和小学校で全国初となる官民連携の「森林教室」を開きました。

広島北部森林管理署の倉石博調整官が「森と木と人のはなし」を小学校6年生に説明。授業を受けた児童は「間伐材は何に使われるの」「間伐するのに最初から少なめに植えないの」などと質問し、森林について知識を深めました。

8月4日には、比和町古頃のアサヒの森で、「森林体験教室」を開催。間伐された状況を観察しながら、森林の持つ力や間伐などの手入れの大切さを学びました。

子どもたちの願い絵手紙に  
総領で防犯絵手紙作品展

REPORT ④

総領町の「防犯絵手紙作品展」が7月17日～8月31日、総領支所・総領文化会館・総領診療所・リストアステーションで開催されました。

3年目の今回は、総領町の小中学生133人が応募。防犯や安全に対するそれぞれの思いや願いを絵手紙にして表現しました。

初日に行われた展示式で、子どもたちは「世の中から犯罪をなくしたい」「安全な町にしたい」「自分たちが作成した防犯絵手紙をみんなに意識してもらいたい」と感想を発表。世話役の総領駐在所の為政誠巡査部長は「少なくとも10年は継続したい」と話していました。



▲作品を眺める子どもたち

REPORT ⑤

歴史浪漫創作芝居を上演  
和南原ふるさと祭り



▲後鳥羽上皇を熱演

隔年で開催される「和南原ふるさと祭り」が8月15日、高野町の和南原コミュニティセンターで行われ、和南原青年会やつまき一座により「新後鳥羽院配流情話」が公演されました。

この芝居は、高野町に伝わる「後鳥羽伝説」を基に、後鳥羽上皇が高野町を経て隠岐の島へ配流されるまでの物語。

今回は、三次市出身の演歌歌手、高山秋子さんも役者として出演し、幕間に友情出演の桐山純一さんとともに歌を8曲披露しました。

お盆の帰省客も多数観覧するなか、会場からの声援により舞台と観客が一体となって盛り上がり、ふるさとの良さを改めて感じていました。

REPORT 12

庄原市の魅力を全国へ発信  
BS2「ごきげん歌謡笑劇団」公開録画



▲ワニ料理を紹介する出演者

NHK広島放送局と庄原市は8月18日、市民会館で衛星第2テレビの新番組「ごきげん歌謡笑劇団」の公開録画を開催しました。

この番組に、綾小路きみまろさん、早乙女太一さん、さかなクン、ゲストとして原田悠里さん、藤あや子さん、山川豊さん、宮川大助・花子さんが出演。ヒバゴンをテーマにした歌謡芝居をはじめ、出演者の歌や踊り、クイズを交えて、庄原市の魅力を発信しました。

また番組で公募した「笑って泣いて五・七・五」では、綾小路きみまろさんが作品を紹介し、夫婦生活や友人関係のエピソードについて市民の皆さんと楽しいトークを展開しました。

この公開録画は、NHK衛星第2テレビで、9月4日(金)21時から21時59分に放送される予定です。

和太鼓演奏のコツを学ぶ  
まほろばの里「太鼓教室」

REPORT 13

太鼓教室が8月8日、帝釈峡まほろばの里で開催され、市内外から約30人が参加しました。

定員を上回る申し込みがあり、午前と午後の部に分けて実施。広島県太鼓連盟公認講師の今岡誠一さんから鬼神太鼓のメンバーは、二尺太鼓や竹太鼓を使って「ばちを握りすぎない」「利き手ではない方に力を合わせる」「太鼓は真ん中が一番いい音がでる」など、演奏のコツを分かりやすく指導しました。

参加した東城保育所の前田小夜子副所長は「太鼓を叩くと気持ちがスカッとして楽しかった。保育所で竹太鼓を教えているが、ばちの振り方やきめポーズなど、子どもたちにどう伝えていくか勉強になった」と話していました。



▲今岡さんから演奏の基本を学ぶ

REPORT 14

特産品を味わいコンサートを楽しむ  
比和特産市場で夜市



7月18日、比和特産市場で夜市が開かれました。特産品コーナーでは、夏野菜や加工品などが並び、イベントコーナーでは、天ぷら・コロッケ・ソーメンなどが店頭販売されました。

庄原保育所に勤務する平岡和子さんのグループ「rimoco's」のエレクトーン演奏もあり、大人から子どもまで楽しい思い出となる一夜を過ごしました。

◀店頭前でコンサート(右側が平岡さん)

REPORT 9

防災・防犯活動のダブル受賞  
比和女性防火クラブが表彰



▲左の2人が比和女性防火クラブ

比和女性防火クラブが7月17日、備北地区消防組合消防本部で、幼少年女性防火委員会から優良女性消防クラブとして表彰されました。

比和女性防火クラブは、大鍋を使用した炊き出し訓練や救急講習会、年末には消防団と合同で夜回りや消火栓などを点検。また、住宅火災警報器の普及に向け積極的に取り組み、比和町では6割を超える全国的に見ても高い設置率となっているなど、地域防災への貢献が認められました。代表の津秋なおみさんは「平素の活動が認められ大変うれしい」と喜びました。

6月26日には、防犯組合連合会から平成21年度防犯功労団体感謝状を受賞しました。



▲防犯組合連合会から感謝状

原爆投下から64年、平和への思いを誓う  
山内原爆犠牲者慰霊式典

REPORT 10

原爆投下直後に270人の被爆者を収容し、88人が亡くなった山内地区で8月6日、山内原爆犠牲者慰霊式典が行われ、遺族や地域住民をはじめ、山内小学校の児童など約100人が参列しました。

会場の原爆慰霊碑には多くの折鶴や灯ろうが飾られ、山内地区社会福祉協議会の菟原元樹会長が「核兵器を廃絶することが原爆犠牲者の御霊に報いることになる」と誓いと追悼の言葉を述べました。広島市長のメッセージが紹介された後、参列者は一人一人焼香し、恒久平和への祈りをささげました。

米子市から参列した遺族の安酸美奈子さんは「13歳の時に山内へ来て、黒焦げの中から父を探した。核兵器廃絶への願いと山内地区の皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです」と当時を思い出して涙を流していました。



▲恒久平和を願いながら焼香する参列者

REPORT 11

子ども神楽で高齢者を元気に  
聖慈保育園が老人ホームで披露



口和町の聖慈保育園の園児20人が7月25日、特別養護老人ホームの「ハートウイング納涼祭」で神楽を披露しました。

この納涼祭は、入所者と地域の皆さんがふれあう毎年恒例のイベント。子どもたちがステージに登場すると、観客から大きな声援と拍手が送られ、懸命に舞うかわいらしい姿に「元気をもらった」と高齢者は大喜びでした。

聖慈保育園はこれまでも年に数回、地元をはじめ市内外の老人福祉施設へ神楽慰問を続けています。

◀ヤマタノオロチを熟演